

非鉄スクラップ展望

10月の銅・アルミスクラップ市況見通し

橋本アルミ(大阪府)取締役 橋本健一郎氏

米中の景気動向とコロナ収束の動向が焦点

10月のLMEと為替は、引き続き米中の景気動向やコロナウイルス収束の動向に左右されそうだ。米中の景気動向に関しては、中国が1日から国慶節の大型連休に入ったことによる景気回復期待や米国の追加経済対策の合意期待など好材料があり、少なからず期待を持てる。一方、コロナ収束の動向については、米トランプ大統領及び周辺関係者へのコロナ感染に加え、フランスや英国での1日当たりの新規感染者数が過去最大を記録するなど再び感染拡大の懸念がある。以上2点の動向が留意事項となる。



橋本健一郎取締役

4万4600ト。うち国内向けが同14.7%減、輸出向けが同54.6%減だった。スクラップの流通在庫は、銅建値が

9月前半にト2万円上昇し、後半に2万円下落したが、前月からの玉不足が響いて少ないはずだ。需要面に関しては内需が思ったほど低迷しておらず、米中の需要回復で輸入玉も不足気味で、スクラップの需要は回復しつつある。

以上を踏まえ、10月のLME銅価格(セツルメント)は6,400~6,800ドルのレンジ、銅建値は70~76万円と予測している。

アルミスクラップの国内概況、景況予想

銅スクラップの国内概況、景況予想

10月の銅建値は前月末から1万円高のトあたり75万円、LME銅価格は9月中旬から203.5ドル安の6,614ドルでスタートした。

国内の概況を見ると、7月の国内自動車生産台数は前年比22.1%減の69万7867台。9月の国内自動車販売台数(軽除く)は29万3520台で前年比16.4%減。8月の新設住宅着工戸数は6万9101戸で同9.1%減だった。自動車については生産・販売ともに大幅減となったが、前月に続き減少率が治まってきていることに注目したい。

一方、8月の伸銅品生産は同31.2%減の3万6750トで21カ月連続の減少となった。8月速報値までの今年の累計生産量は41万5000トで前年同期比18%減。これは17年、18年の上期分の生産量だ。車載向け半導体や自動車用コネクタ関連の伸銅品需要が大きく減らしている。また、エアコン関係も流通在庫の調整が進んでおらず、学校向けのパッケージエアコンの設置工事も中止や延期の影響から期待通りに進んでいない。

8月(推定)の銅電線出荷量も前年同月比15.9%減の

指標となるLMEアルミ価格は9月中旬から51ドル安の1,716ドルで10月をスタートした。

8月のアルミ圧延品生産出荷は板類・押出類の生産合計が前年同月比12.5%減の11万8381ト(板類7万2121ト、押出類4万6260ト)と13カ月連続の減少。今後もさらに減少が続くのかどうか動向を注視する必要がある。一方、8月のアルミ二次合金・同合金地金等生産実績は同20.7%減の4万5533トで7カ月連続の減少。出荷も同21.6%減の4万6209トで10カ月連続の減少だった。8月のアルミ輸出に関しては、内需低迷や外需が比較的好調なことからスクラップが大幅に増加。輸入は円高による輸入塊の高騰でスクラップは増加した。

スクラップの流通在庫は、LMEアルミ価格が1,700ドル前半で上値は重いものの、発生減から売り惜しみも目立つ。需要面については米中経済が回復してきたことによる輸入塊価格の上昇で、国内モノに引き合いが強い。需給は引き締まっていると言える。

以上を踏まえ、10月のLMEアルミ価格は1,700~1,800ドルのレンジ。スクラップ購買価格(前月最終価格より)は据え置きから+5円程度と見込んでいる。

10月銅予想レンジ		基調
LME銅セツルメント	6,400~6,800ドル	弱い
銅建値	700~760円(ト)	弱い
為替	1ドル=103~106円(1カ月間TTM)	円高

10月アルミ予想レンジ		基調
LMEアルミ現物後場買い	1,700~1,800ドル	弱い
スクラップ価格	0~+5円(前月最終価格より)	強い
為替	1ドル=103~106円(1カ月間TTM)	円高